令和4年第4回小松市議会定例会
報告第13号　別冊

令和3年度 公立大学法人 公立小松大学の取組みと業務運営の評価

KOMATSU UNIVERSITY

令和4年8月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee

contents

はじめに 03

Ⅰ 全体評価 総評 04

Ⅱ 項目別評価

(1) 教育・研究編
① 教育 05
② 研究 07
③ 国際交流 09

(2) 地域貢献編
① 地域貢献 11

(3) 法人経営編
① 業務運営 13
② 財務 14
③ 自己点検・評価/広報 15
④ 施設・設備 16
⑤ その他 16

Ⅲ 資料

(1) 公立小松大学の情報 17
基本理念・教育理念/大学の学部・学科構成/組織図

(2) 評価 19
評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準

(3) 用語解説 21

キャンパスマップ 22

公立小松大学校歌
光より速きわれら

なかにし　礼　作詩
千住　明　作曲

見よ　白山の頂を
若き　飛躍の舞台なり
学びの時を　愉しく修め
いざ羽ばたかん　自由の翼
世界は広し　ならばなお
翔びゆけわれら！　光より速く！
公立小松　小松大学

海　永遠の時を打つ
若き　希望も無限なり
果てなき空に　ゆるがぬ意志で
描け七色の　調和の虹を
理想は遠し　ならばなお
挑めよわれら！　光より速く！
公立小松　小松大学

この命こそ　奇跡なり
汝　自身を　知りつくせ
高みに上り　高みを越えて
いざ身に浴びん　叡智の景色
真理は深し　ならばなお
極めよわれら！　光より速く！
公立小松　小松大学

はじめに

コロナウイルス感染症の流行が長引くなか、感染拡大を防止しながら、日常生活や社会経済活動を継続できるよう行動制限の緩和が進められてきました。大学においても、感染症対策を徹底しつつ、地元団体や企業、自治体と連携したインターンシップや地域実習を行うなど、本格的な学外実習に取り組むことができるようになりました。今後、地域との連携体制の構築を進め、まちづくりや地域活性化に寄与することで、地域における大学の評価を高めていくことが大切だと考えます。

さて、完成年度を迎えた令和３年度は、公立小松大学として初めての卒業生が送り出されました。これまで学生の教育や就職支援に全力で取り組まれ、高い就職率や全国平均を上回る国家試験合格率といった成果を挙げられたことは、大変喜ばしいことであります。卒業生におかれましては、修得した知識と専門能力を活かして、地域や世界でご活躍されることを期待します。

また、令和３年10月には大学院の設置認可を受け、サステイナブルシステム科学研究科が開設されることとなりました。今後、南加賀地域における教育、研究の中核的拠点としての機能を充実させ、公立小松大学憲章に掲げられた理念の実現や令和５年度までの第１期中期目標の達成に向けて、より一層の取り組みの推進をご祈念いたします。

小松市公立大学法人評価委員会 委員長

小松市公立大学法人評価委員会 委員

項目	氏名	所属　職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学 監事
委　員	まつざわ てるお 松澤 照男	北陸先端科学技術大学院大学 名誉教授
委　員	なかやま けんいち 中山 賢一	小松マテーレ株式会社 名誉相談役
委　員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会 理事長
委　員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所 代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附属機関。法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う。

公立小松大学 中央キャンパス

全体評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

令和３年度の公立大学法人公立小松大学の業務実績は、全体として中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

開学４年目となった令和３年度は、学生をはじめて社会に送り出すことができ、キャリアサポートセンターや担当教員の積極的な活動の結果、就職内定率が100%となったことは大きな成果として評価できる。引き続き卒業生の就職活動の実績等を調査するなど、今後の学生のキャリア形成や就職支援活動に生かしていただきたい。

教育面では、新たな大学間協定を締結して交流協定校を増やしており、また、コロナ禍においても留学生の派遣や受け入れを着実に進めていることは評価できる。今後は、国際文化交流学科に限らず様々な学科においても学生の国際交流の機会を推進し、広い視野を持った学生を育成されることを期待する。

研究面では、教員の研究業績が目標値を大きく超えたことは大いに評価できる。特に、国際学会での報告件数や外国語論文数の実績は特筆すべきである。大学における研究支援制度を更に充実させ、学内での共同研究を奨励し、大型の外部研究資金を獲得されることを期待する。

令和３年度には、開設準備を進めてきた大学院の設置が認可され、定員を超える入学生が確保されている。大学院の設置により、これまで以上に研究活動が重要となるが、専門分野のみの閉鎖的な活動ではなく、企業との共同研究など地域に開かれた研究活動が求められる。

２年後には第１期中期目標期間の終了を迎えるが、教育・研究、地域貢献、法人経営の各分野における評価結果を踏まえ、中期目標・中期計画の達成に向けた取り組みをより一層充実させていくことを期待する。

項目別評価

項目		評価結果	
(1) 教育・研究	① 教育	A	順調
	② 研究	A	順調
	③ 国際交流	A	順調
(2) 地域貢献	① 地域貢献	A	順調
(3) 法人経営	① 業務運営	A	順調
	② 財務	B	概ね順調
	③ 自己点検評価・広報	A	順調
	④ 施設・設備	A	順調
	⑤ その他	B	概ね順調

評価基準	
S	特筆すべき進行状況
A	順調
B	概ね順調
C	要改善
D	要抜本的改善

評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 高校訪問、オープンキャンパス、高校の進路指導教員を対象とした大学説明会の開催などの取組みを通じて学生の確保に努め、志願倍率は中期計画の目標値2倍以上に対し、7.8倍となった。
- 地元企業や自治体等と連携し、インターンシップや地域実習・臨地実習を実施するなど、各学科において学外実習に本格的に取り組んだ。
- 学生の授業評価アンケートをもとに授業のレベルアップに取組み、授業満足度は5段階評価で平均4.26と、高い評価を得た。
- 卒業研究・論文の作成や国家試験対策等において丁寧な指導・サポートを行い、初の卒業生を送り出した。なお、国家試験の合格率は、看護師・保健師が100%、臨床工学技士が91.2%で、全国平均を大きく上回った。
- キャリアサポートセンターでは、専任の講師を配置し、就職ガイダンス、学内企業説明会、個別の進路指導等を実施するとともに、関係機関で開催される就職ガイダンス等への学生の参加を促し、令和3年度卒業生の就職内定率は100%となった。
- 令和4年4月の大学院サステイナブルシステム科学研究科の開設に向け、粟津キャンパスに大学院棟を整備し、実験室に最新版の精密機器を備えるなど、教育研究環境の充実を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

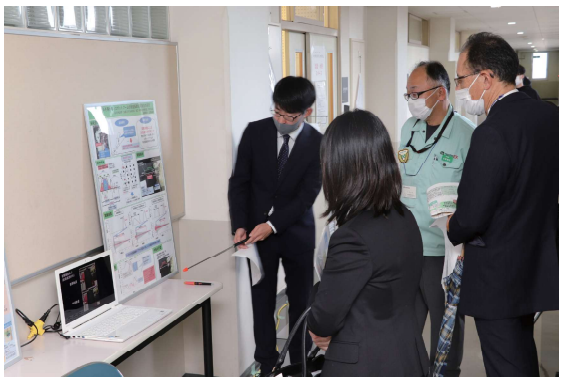
【評価】

◎ 少人数教育や複数教員、ティーチングアシスタント活用により、アクティブ・ラーニングに取り組んでおり、評価できる。今後も生きた知識や能力を高める教育の展開を期待する。

◎ 卒業研究・論文の作成に向けて専任教員が学修支援を行っている点は評価できる。生産システム科学科において、地元企業を招き中間発表会を実施したことは特筆に値する。

◎ 就職内定率が100%となったことは、大きな成果として評価できる。卒業生の進路情報を管理し、学生の就職活動支援に役立ててほしい。

◎ 計画通りに大学院の設置が認可され、定員を超える入学者を確保できたことは評価できる。



生産シーズ・ニーズマッチングシンポジウム（12/15）

生産システム科学部による学生の卒業研究の中間発表（ポスターセッション）を中心としたシーズ・ニーズマッチングシンポジウムを開催

数値指標の達成状況

※［ ］は、達成年度前であるが、R3年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R3目標値	実績	備考
志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍 以上	ー	［ 7.8倍 ］	令和3年 7.8（一般9.6、推薦2.5） 令和4年 5.8（一般6.9、推薦2.5）
学生の満足度	5段階評価（平均値）	毎年度	3.3	3.3	4.26	前期　4.27 後期　4.25
外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部 TOEICスコア（4年生平均）	毎年度	600点	600点	549点	
標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数/当該年度入学者数	毎年度（完成年度以降）	80%	80%	90.8%	
就職希望者の就職率	就職者数/就職希望者数	毎年度（完成年度以降）	90%以上	90%以上	99.5%	2022年3月末時点の就職内定率 100%
国家試験合格率	看護師・保健師の合格率	毎年度（完成年度以降）	95%以上	95%以上	100%	
	臨床工学技士の合格率	毎年度（完成年度以降）	95%以上	95%以上	91.2%	全国合格率　80.5%
市民公開講座開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10 ／年	10 ／年	13	市民大学　2 資格取得支援講座　1 その他授業　10
	教員参画数／年	完成年度以降	20人 ／年	20人 ／年	延べ25人	
市民による施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウィルス感染症の影響を鑑み、学外者の利用を中止したため
	自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウィルス感染症の影響を鑑み、学外者の利用を中止したため
	大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	207件	中央　41件 粟津　163件 末広　3件
インターンシップ参加者数	参加者数／年	毎年度（3年目以降）	200人	200人	延べ304人	「学外技術体験実習」（生産）　84人 「インターンシップ」（国際）　63人 その他（授業外）　157人

アカデミックガウン完成披露（3/3）

初の卒業生を送り出すにあたり、建築家の隈研吾氏がデザインしたオリジナルのアカデミックガウンを製作。廃棄される植物の天然成分を活用し染め上げられるなど、環境へも配慮した作りとなっており、地元の協力企業でもある小松マテーレ㈱に製作いただいた。

地域実習〔国際文化交流学科〕

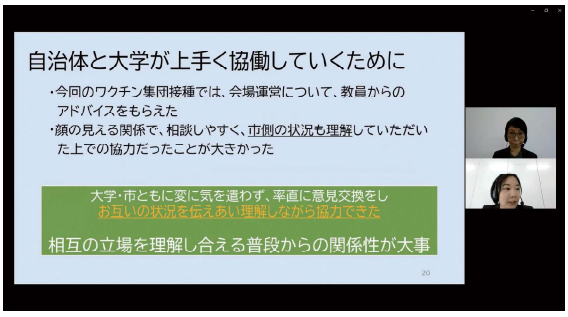
地元団体や企業、自治体の協力を得て、農業、観光、芸術、保育など6つの課題に取り組み、成果報告と合同の総括会を行った。

評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 大学独自の研究支援制度を設け、各学科の特色を活かした研究、地域の問題解決に向けた研究を推進した。
- 全教員を対象に日本学術振興会研究倫理eラーニングの一斉受講を実施し、競争的研究費の不正防止など研究倫理に関する意識の向上を図った。
- 大学院のキックオフイベントとして、持続可能性（サステイナビリティ）をキーワードに「市民公開フォーラム」を開催し、客員・特任教授予定者を含む専門家４名による講演会を行った。
- 教員の研究に焦点を当て、詳しく紹介する広報誌「Tachyon Academia」の第１号を発行し、本学教員の研究を広く発信した。
- 教員の研究業績のとりまとめを行い、学会報告件数、論文・著書数は、中期計画の目標値を大きく上回る結果となった。
- 「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」の開催・各種産学官連携イベントへの参加を通して研究シーズの発信や地域連携推進センターの活動のPRを行った。

シーズ・ニーズマッチングシンポジウム
「今こそ、地域と共に！」



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

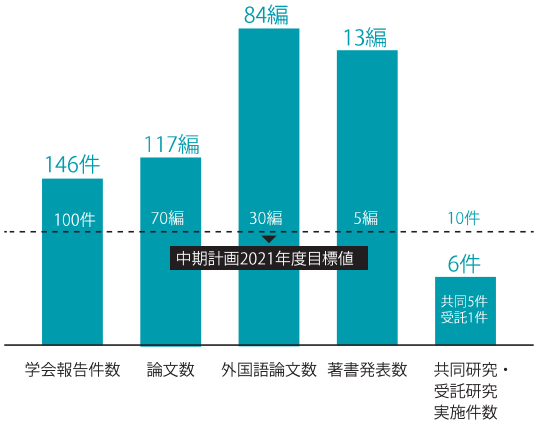
【評価】

◎ 大学独自の研究支援制度を活用した、若手研究者の育成や学部・学科融合による特色ある共同研究を奨励し、大型の外部資金獲得に期待したい。

◎ 教員の研究業績、とりわけ国際学会・その他の外国語論文数が中期計画の目標値を大きく超えたことは評価できる。

◎ 大学院の開設後においては、よりオープンな研究室活動の展開を期待したい

◎ 「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」や各種産学官連携イベントに積極的に参加している点は評価できるが、萌芽的な企業との共同研究につながるよう、大学が支援できる仕組みを検討されたい。



教員の研究実績

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R3目標値	実績	備考
学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	100件	146件	
論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	70編	117編	
	英語・その他の外国語論文数／年	完成年度以降	30編	30編	84編	
	著書発表数／年	完成年度以降	5編	5編	13編	
共同研究・受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	10件	6件	共同研究　5件 受託研究　1件
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	44件	新規　15件 継続　29件
	その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	14件	

市民公開フォーラム「地域と世界のサステイナブルな未来を考える」

「持続可能性（サステイナビリティ）」をキーワードに、国際医療福祉大学の高橋泰教授、(株)タジマモーターコーポレーションの田嶋伸博代表、コマツの浦野邦子顧問、金沢大学古代文明・文化資源学研究センター中村誠一センター長の4名の専門家を講師に迎えて開催。学生や教職員、市民など約200人が参加した。

③ 国際交流

評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 新たに大学間交流協定１件を締結した。
  ※累計では16件
  （大学間：10件、部局間：５件、その他機関：１件）
  ＜新たな協定の締結＞
  ◎ 大学間交流協定
  ＊ 湖西大学校（韓国）
- 中国や米国などの協定校との短期及び長期の交換留学等を実施した。
  ※累計では短期20人、長期3人
  （内オンライン留学：短期20人、長期1人）
- 対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」に採択され、国際文化交流学部の学生が米国の複数の大学の学生とオンラインで文化交流会を実施した。
- JICA青年研修事業に採択され、保健医療学部看護学科が主体となり、仏語圏アフリカ諸国の医療従事者（20歳～35歳程度）を対象としたオンライン研修を実施した。
- 小松市や小松市国際交流協会等と連携した「英会話カフェ」や「中国語カフェ」の開催や、「こまつ市民大学」にて多文化理解に係る講座を実施するなど「国際都市こまつ」の発展に貢献した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【 評価 】

◎ コロナ禍であっても、交換留学が積極的に行われ、大学間交流協定校が着実に増えている点は評価できる。各協定校との交流の実績を明確にしつつ、実質化を図られたい。

◎ キャンパスのダイバーシティを維持・発展させるため、外国人留学生・社会人など多様な人材の受け入れを期待したい。

◎ 保健医療学部においても、海外大学との学生間・教員間の学術交流を推進し、教育の質の向上に努められたい。

外務省対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」 (9/10)

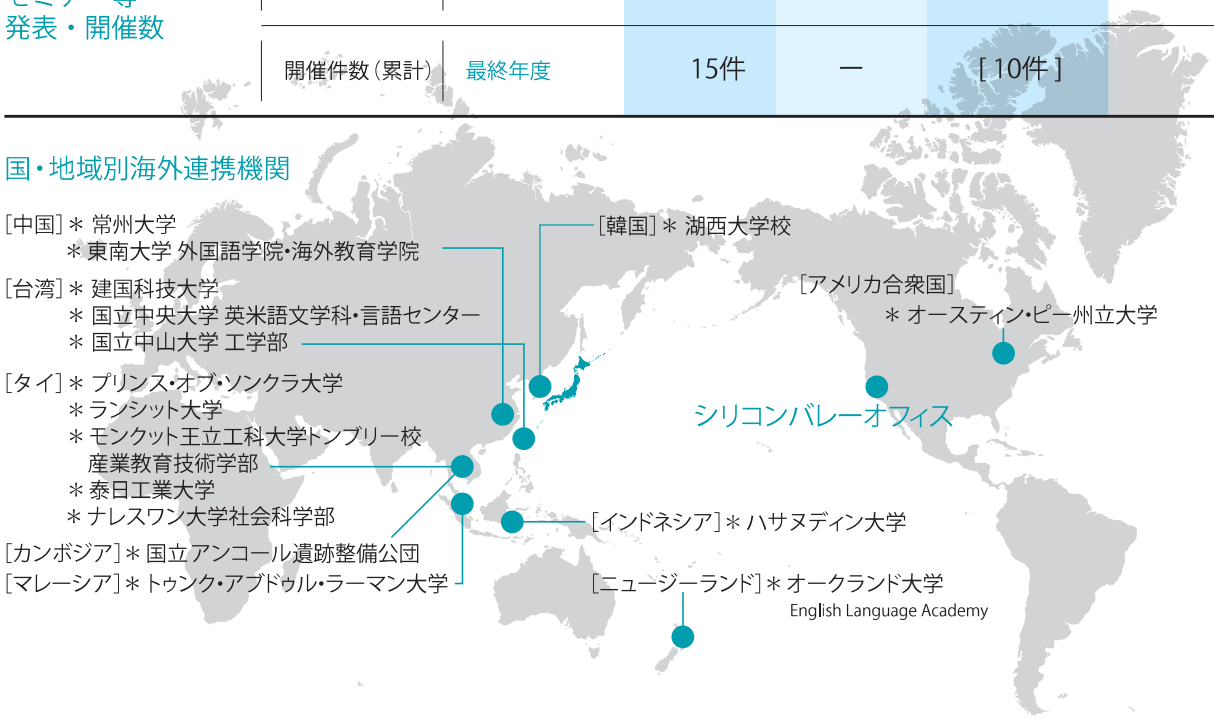
国際文化交流学部の学生が、米国のオハイオ大学、ウィスコンシン州立大学マディソン校、リーハイ大学の学生と文化交流を楽しんだ。

数値指標の達成状況

※［　］は、達成年度前であるが、R年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R３目標値	実績	備考
留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度（3年目以降）	10人以上	10人以上	1人	短期　0人 長期　1人（R3.4月～R4.3月）
	派遣人数／年	毎年度（3年目以降）	40人以上	40人以上	22人	短期　20人（オンライン留学20人） 長期　2人（オンライン留学1人）
海外大学等との交流協定締結数	協定数（累計）	最終年度	10件	―	［16件］	大学間　10件 部局間　5件 その他　1件
国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	15人	延べ39人	
	開催件数（累計）	最終年度	15件	―	［10件］	

国・地域別海外連携機関



中国語カフェ

小松市在住中国出身の方を講師に迎え、実用的な中国語と中国文化を学んだ。

JICA青年研修事業（1/17～2/8）

保健医療学部看護学科教員が主となり、仏語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした「地域保健医療プログラム」を行った。

① 地域貢献

評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- サステイナブルな未来について、各研究分野の視点で考察し、市民や地域社会への知の還元を図るため、「市民公開フォーラム」地域と世界のサステイナブな未来を考える、「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」今こそ地域と共に!を実施した。
- 昨年度に引き続き小松市から依頼を受け、122回の新型コロナウイルスワクチン集団接種に看護学科の教員延べ168人、学生延べ197人が協力し、市内3ヵ所の集団接種会場において、経過観察や会場誘導を行った。
- 「こまつ市民大学」では、ものづくりや健康、語学、国際情勢など、教員の研究分野に沿った講座を多数開講し、市民の学びをサポートした。
- 共同研究や受託研究の推進、地域の課題解決に向けた大学の知の還元を目指し、地域連携推進センターを中心に、各種産学官連携イベントに出展し、大学の情報発信と地域連携事業のPRを行った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

◎「市民公開フォーラム」や「こまつ市民大学」、サイエンスヒルズこまつとの連携など、大学がもつ知的資源を市民や地域社会へ還元する取組みを積極的に展開している点は評価できる。

◎ワクチン集団接種業務への協力は、地域貢献のみならず、専門性を活かしたよい経験であり、非常に評価できる。

◎社会人教育や小中学生向けの講座に学生、教職員が参加することで、新たな視点や地域とのつながりが得られるので、積極的な取組みを期待したい。

◎小松市にとどまらず近隣市にも地域連携の活動の幅を広げたり、多様な産業との連携を模索するなど、より一層の地域貢献を図られたい。

Matching HUB Hokuriku（12/13）
地域の活性化を目指した産学官金マッチングイベントに本学も出展し、情報の発信を行った。

数値指標の達成状況

※［ ］は、達成年度前であるが、R3年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R3目標値	実績	備考
市民公開講座開講数（再掲）	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	10／年	13	市民大学 10 資格取得支援講座 1 その他授業 2
	教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	延べ25人	
市民による施設利用度（再掲）	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウィルス感染症の影響を鑑み、学外者の利用を中止したため
	自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウィルス感染症の影響を鑑み、学外者の利用を中止したため
	大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	207件	中央 41件 粟津 163件 末広 3件
連携施設・店舗等の数	累計数	最終年度	50件	ー	［ 363件 ］	協力企業等 338団体 ランチ助成券 25店舗 学食ネット 2店舗 （ランチ助成券との重複2店舗）
学生の地域行事等ボランティア件数・人数	件数／年	完成年度以降	20件	20件	128件	小松市ワクチン集団接種 122件 ボランティアサークル 5件 その他 1件
	参加人数／年	完成年度以降	100人	100人	249人	小松市ワクチン集団接種 197人 ボランティアサークル 50人 その他 2人

新型コロナワクチン接種協力（7/24）

ワクチン接種会場の運営に係る人員確保が難しい中の協力要請に応じて、本学看護学科の教員と学生が接種後の経過観察、会場誘導を担当した。

第4回 青松祭（10/23 オンライン開催）

「United Power～ちからを一つに～」をテーマに、サークル紹介やキャンパス紹介、小松市紹介、学術企画など学生が企画し、実行した。

評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 評価室によるヒアリングを実施し、各セクションの業務の進捗状況等を定期的に確認し、組織全体の適切な進捗管理を推進した。
- 大学院設置に係る業務のため、担当事務職員（専任1名、併任3名）を選任し、修士・博士課程設置検討WGとともに準備を進め、令和3年10月22日に文部科学大臣より大学院設置認可を「可」とする旨の答申を受けた。
- 大学院の開設に向けて、粟津キャンパス大学院棟の竣工、末広キャンパス研究実験棟整備に係る調整、関係規則の制定、大学院担当職員の選任、教員選考試験、各専攻の入学者選抜試験を行った。
- 教員評価基準検討WGを設置し、教員評価の実施概要を策定した。
- 大学主催のFD/SD研修会を２回実施するとともに、外部主催の研修会への参加を促し、教職員の資質・能力の向上を図った。
- Microsoft社のアプリを活用した会議やデータ集約など、情報化の推進及び業務の効率化を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

◎ 大学院の設置に向けて取組みを進め、修士課程の設置認可を得たことは評価できる。今後は博士課程の設置に向けた準備を適切に進めることを期待する。

◎ 理事会や各種審議会、教授会などで審議された重要事項について、大学の全構成員に周知させる方策について検討されたい。

◎ 教員評価基準検討WGを立ち上げ、実施概要を策定した点は評価できる。今後、実施に向けて取り組むとともに、長期視点に基づく評価についても検討されたい。

粟津キャンパス大学院棟（令和４年３月竣工）

数値指標の達成状況

※［　］は、達成年度前であるが、R3年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R3目標値	実績	備考
業務改善実施件数	件数（累計）	最終年度	40件	―	［40件］	
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	1件以上	2件	本学主催　2件

評価 B 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 入学志願者の確保及び入学定員の充足によって安定した学生生徒等納付金収入の確保を図るため、コロナ禍においてもオンラインの活用等工夫を凝らしながら、オープンキャンパスの開催や高校訪問、進路指導教諭対象説明会、進学相談会への参加など、様々な取組を実施した。
- パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用や、ホームページの基金の活用事例を紹介するページにより、基金の受け入れを促進した。
- 科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、完成年度以降目標値を超える結果となった
（科学研究費採択数：44件、その他外部資金獲得数：14件）

オープンキャンパス2021:中国語の模擬授業
（国際文化交流学科）

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、3キャンパスで約270人の参加者が模擬授業、キャンパス見学など様々なプログラムを体験。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

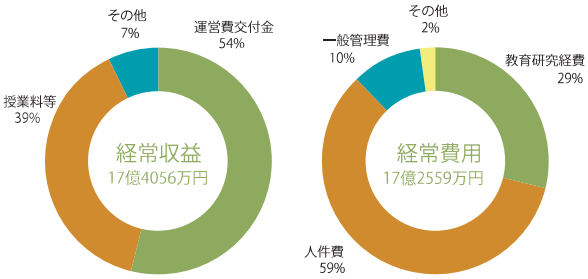
【評価】

◎ オープンキャンパスの開催や高校訪問など、様々な機会を捉えて積極的な学生募集活動を展開し、受験生の獲得及び定員の充足を図り、安定した学生納付金の確保につなげている点が評価できる。

◎ 大学の取組みを積極的にアピールするなど、基金への寄附が集まる仕組みを工夫されたい。

◎ 自己収入額の確保や科学研究費・外部資金の調達などにおいて順調であり、健全な財務内容である。

法人の経営状況



数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R3目標値	実績	備考
自己収入額	自己収入額／年	毎年度（完成年度以降）	7億円以上	7億円以上	7.3億円	
科学研究費補助金等獲得状況（再掲）	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	44件	
	その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	14件	新規　15件 継続　29件

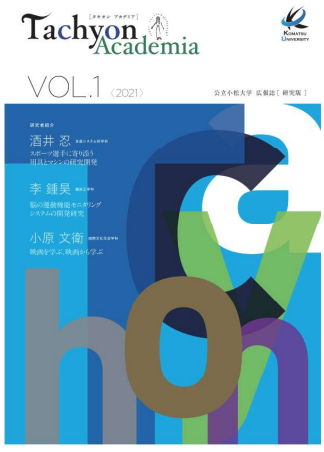
評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 前年の業務実績について法人評価委員会による評価を受け、その後、指摘やアドバイスは学内の審議会や委員会を通じて全職員へ周知し、業務改善や新たな取り組みの実施に努めた。
- 自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの業務の把握、進捗管理を定期的に実施し、円滑な業務執行につなげた。
- 広報紙「Tachyon」の発行、大学ホームページの更新のほか、テレビやラジオ、新聞、市の広報紙などさまざまな媒体を活用し、大学の取り組みや学生の課外活動、教員の研究などについて積極的にPRした。また、新たな広報媒体として、広報誌「Tachyon Academia」を発行し、本学の研究内容・成果に関する情報発信を強化した。

Tachyonアカデミア

研究紹介に特化した広報誌を新規発行。生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部から1名ずつ教員の研究内容について紹介し、研究成果を広く発信した。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【 評価 】

◎ 広報戦略によって大学の評価は変化するため、今後も引き続き広報に注力されたい。

◎ 自己点検・評価の目的を明確にし、教育・研究活動や事務処理に役立てられたい。

◎ 小松大学で生産される「知」の収集と蓄積、発信を担う「機関リポジトリ」について検討されたい。

MRO番組放送

北陸放送のローカルワイド番組「絶好調W」で青松祭の告知や大学紹介をしたほか、夕方のニュース番組「レオスタ」で開学4年間の成果や歩みが放送された。

▲2022年3月29日放送　MRO「レオスタ」より

評価 A　中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 整備計画に基づき、粟津キャンパスでは大学院棟を整備するとともに、学生食堂の外壁修繕を行った。また、計画外の対応として、末広キャンパス研究実験棟の用地取得や基本設計に着手するなど、研究施設整備を加速させた。
- 電力使用量の管理を徹底するため、粟津・末広キャンパスではデマンド監視装置を設置し、中央キャンパスでは日々の電力使用状況の報告を受けることで、大学全体で省エネ対策に取り組んだ。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

◎ 施設・設備計画に基づき、計画的に整備を進めていることは評価できる。

◎ 大学院が整備され、研究室活動が重要な学修の場となるため、各種ハラスメント防止対策の検討・実施に期待したい。

評価 B　中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 危機管理委員会や安全衛生委員会を定期的に開催し、職員・学生のコロナウイルス感染症に対する危機意識を組織的に高めるとともに、大学として感染症対策を実施した。

学内における新型コロナウイルス感染症に係る対応（再掲含む）

＊ 講義室の環境改善（収容人数の半減化・換気の徹底・オンラインの併用など）
＊ 空気清浄機（計 10 台）・オゾン発生器（計 100 台）・サーモグラフィ体温測定器（計4台）の設置
＊ オンライン会議の促進
＊ 職員による日々の施設内消毒
＊ 在宅勤務制度の運用
＊ さまざまな媒体（館内掲示・メール・HP・ポータル・館内放送など）によるコロナウイルスの情報提供・注意喚起
＊ 不安を抱える学生に対するメンタルケア（学生相談など）
＊ 各講義室や教養場所にアルコール、机などを拭く環境消毒用クロスを設置
＊ 感染が判明した場合は新型コロナ感染症連絡網を活用し、対応を行った

- 職員の心身の健康の維持・増進のため、年休の取得促進を図った結果、全職員の年5日以上の取得を実現した。
- 令和２年度の決算・業務についての監事監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

◎ 新型コロナ対策を積極的に展開している点は評価できる。今後もウイルスの変動に応じて臨機応変な対策を講じられたい。

◎ 定期健康診断や健康相談、予防接種の奨励など、学生・教職員の健康増進への積極的な取組みは評価できる。安全衛生管理や健康管理の成果の見える化についても検討されたい。